

シェアハウス「パウハウス横浜」

☎03-3457-6522(大間商品研究所)
アクセス:市営地下鉄「三ツ沢下町駅」から徒歩7分

陽光がきらめく。
渡る風が木々の葉を揺らす。
庭の中央に枝を広げる巨木に
見守られるようにして建つ家。
これは個人宅ではない。
神奈川県三ツ沢―。
気の合う仲間が集まり暮らす、
特別な場所だ。

新たなる出会いのすすめ

OPEN THE DOOR

オープン・ザ・ドア
ドアの向こうの新世界

最近、新しい出会いはありましたか？
新鮮な「人」や「もの」に触れたくありませんか？
そのためには、これまで開けてこなかった
扉を叩いてみる必要があるかもしれません。
その向こうにはきっと素敵な世界が広がっているはずです。

横浜駅から徒歩圏内の高台の上に、シェアハウス「パウハウス横浜」はある。

シェアハウスとは文字通り、複数の人々が一つの住居空間を共有（シェア）して暮らす賃貸物件のこと。

その始まりは今から30年ほど前といわれ、日本に中长期滞在する、物件を借りるのが難しい外国人のためのガイジンハウス（ゲストハウス）として登場したものが発展。やがて日本人向けの物件に変貌したといわれる。近年は認知が進むと同時に新たな物件が次々と出現。個性的な魅力を持つハウスも少なくなく、主に若い人たちの間でちょっとしたブームになりそうな観もある。その一方で、そのような共同生活に抵抗を覚える人もいたようだ。

一般に家賃が安いイメージのあるシェアハウスだが、そのでの生活の魅力について実際の住人に尋ねると、資料の安さ以上にそこで得られる「良質な体験」をあげる人が多いという。その体験とは実際どのようなものなのか。「パウハウス横浜」の住人の皆さんにお話を伺った。



INTERVIEW

お話を聞いたのは

左 青木恵美さん(36)会社員
中 松本壽さん(26)会社員
右 榎原琢人さん(29)会社員



編 他にこちらの暮らしで良かったのはどんなことですか？
榎 僕はギターやピアノを弾くんですが誰かと一緒に演奏し、それを聞いてもらいたいという夢がかないました。社会人同士だと時間が合いません。かたまりするんですが一緒に住んでいれば練習も気軽にできますし、ハウスのイベントで演奏もできます。
編 松本さんはどうですか？
松 裏の竹林で春先に採れるタケノコを料理してくれる人がいて、その方は誰かの誕生日にケーキを焼いてくれたりもするんです。一からの手作りは感動が大きいですね。ほぼ一月に一回、おのの誕生日にケーキや料理を作り、プレゼントを買って祝うのが恒例になっています。
榎 それ以外にも毎週3〜4人での気軽な集まりが何かしらあります。無理をしないで会つという感じですが、とても楽しそうですね。皆さんの

素敵な刺激を与えてくれるシェアハウスの仲間たち



MEETS PEOPLE

人々が出会い、集い、暮らす新しいカタチ

編 さて、シェアハウス暮らしで自身には何か変化がありましたか？
榎 ひとり暮らしの時、休みの日は家でごろごろしていることが多かったんですが、今は毎週何かしら活動しています。
編 アクティブになってどんな良いことが？
榎 仕事以外の時間をきちんと楽しめるようになりつつあります。ひとりの時は自分の趣味だけでしたが、ここでは色々な人が様々なことをやっています。自分が大いに楽しみたい、人を喜ばせることにもなっている人がいて、とても刺激を受けます。
編 松本さんも何らかの刺激を受けていますか？
松 そうですね。ここに住む人はそもそも他人と話したり、何かしてあげたいという意識が高い人。また、ものを作る人も多いので、自然と何かやりたい気持ちになります。
編 皆さんとても良い関係にあるんですね。今後、こちらを出たとしてもこの関係は続けていきたいですか？
榎 そうですね。実は、あと一週間で、この同じ会社が運営する都内のハウスへの引越しが決まっています。ハ

- 4. イベントなどの際、共同キッチンで作られた食事を一緒に味わう体験は、住人同士の絆を深める大切なひととき
- 5. 斜面状の土地を活かした、階段状のリビング
- 6. 個人の居室にも木が多用されている。各室備え付けの机はアンティーク



ウス同士で交流がありますし、今後ますますこの人たちと仲良くしていきたいと決めた転居先です。
松 僕も同じ気持ちです。
編 では最後に、青木さんは今後皆さんとどういった関係を築いていきたいですか？
青 私も色々な人と互いに刺激しあえるような関係を築いていきたいと心から願っています。

話を聞いて青木さんはどうお感じになりましたか？
青 私もフルートを吹きますが、練習したくても普通のアパートだと騒音の問題でできないということがありました。ここなら演奏ができそうですし、タケノコもぜひ食べたいですね(笑)
編 さて、シェアハウス暮らしで自身には何か変化がありましたか？
榎 ひとり暮らしの時、休みの日は家でごろごろしていることが多かったんですが、今は毎週何かしら活動しています。
編 アクティブになってどんな良いことが？
榎 仕事以外の時間をきちんと楽しめるようになりつつあります。ひとりの時は自分の趣味だけでしたが、ここでは色々な人が様々なことをやっています。自分が大いに楽しみたい、人を喜ばせることにもなっている人がいて、とても刺激を受けます。
編 松本さんも何らかの刺激を受けていますか？
松 そうですね。ここに住む人はそもそも他人と話したり、何かしてあげたいという意識が高い人。また、ものを作る人も多いので、自然と何かやりたい気持ちになります。
編 皆さんとても良い関係にあるんですね。今後、こちらを出たとしてもこの関係は続けていきたいですか？
榎 そうですね。実は、あと一週間で、この同じ会社が運営する都内のハウスへの引越しが決まっています。ハ

理想に近い物件を横浜で見つけたという事です。家賃の安さも魅力でした。
榎 内装もオシャレ、即決でした。
青 私も環境のすばらしさには惹かれました。ちょうど将来の可能性を広い視点から探りたいと考えていて、シェアハウスという新しい暮らし方を選んだ面もあります。
編 実際に暮らししてみても環境はどうでしたか？
松 良いですね。僕が一番気に入っているのが敷地中央の大きなヒトツバタゴの木の上の小屋(ツリーハウス)です。リビングで食事を作るときなどに眺めていると季節の変化を感じられて気持ちが良いです。



- 2. 素敵な絵タイルが魅力の広々としたバスルーム。その向こうには爽やかな色合いの竹林が広がる
- 3. 共用のリビングに備え付けの薪ストーブは冬季に活躍



以前入居していた薪トレ好きの女性が乾居する際にプレゼントした、ダンベル形の手作りハンガー

1. 廊下や階段など、至るところに木の温もりを感じられる室内

SHARE HOUSE BOW HOUSE-YOKOHAMA



横浜市中心部に近い場所ながら自然が多く、見晴らしもよい。敷地中央に生える巨木の上のツリーハウスは今後、カフェとして一般に開放する予定

つながりを求めて始めたシェアハウス生活

編集部(以下・編) 皆さん、シェアハウスはこれから初めてですか？
榎原・松本(以下・榎・松) そうですね。
青木(以下・青) カナダでホームステイを1年半したことはあります。
編 皆さん、初の経験なんですね。こちらに住んでどのくらいになりますか？
榎 僕が1年で松本君は半年。青木さんは昨日移ってきたばかりです。
編 それぞれどのような経緯でシェアハウスに入居を決めたのでしょうか？
榎 ずっと続けていたひとり暮らしに寂しさを感じていたところ、友人の話でシェアハウスを知りました。
松 どちからかというインドア派ですが、僕もひとりの時間が長すぎるのが嫌で、プライベートな空間を確保できつつ、住人同士の交流もあるシェアハウスに引越しを決めました。
榎 でも、基本はひとりありきたりだね。
松 それにプラスα、他人と触れ合う空間があれば生活がより充実します。
編 青木さんはどうですか？
青 3ヶ月前にこちらに出てきました。カナダでのホームステイや東京の友人宅での同居でも家族のような温かな関係を結べたんです。シェアハウスも同じように楽しそうだと思います。
編 物件は色々ありますが、最終的に何故こちらのハウスを選んだのですか？
松 温もりのある木造の家が好きで、